



いとう ゆういち
伊藤 裕一さん(50歳) 愛西市立田町

海部のレンコンに 親しんでもらいたい

海部れんこん組合に所属し、1町2反の面積でレンコンを露地栽培する伊藤さん。手がけるのはロータスホワイト、備中、金澄の三品種です。年末に向けて需要が高まる現在は、日の出前から収穫作業に励みます。

伊藤さんは自身の名前で出荷するように今年で3年目を迎えます。以前は運送会社でトラックの運転手として働いていましたが、レンコン農家だったお父様が9年前に他界され、受け継いだ農地をこの先どうやって守っていくべきか悩み抜いた末に一大決心。25年間勤めた会社を辞め、全くの未経験だった農業の世界に飛び込みました。

1年目は組合や周りの先輩に農作業を手伝わせてもらいながら、農機の運転や収穫作業を一つ一つ体で覚えていった伊藤さん。出荷で分からないことがあればJA職員に相談し、着実に知識と経験を積み重ねていきました。先代は鍬掘りだけでしたが、経営の安定と作業の効率化を図るため、水堀りも導

入しました。

伊藤さんの所有する農地はそれぞれ1〜2反ごとに5か所ほどに分かれています。場所によって環境や土質が異なるため、施肥のタイミングや量、土壌の管理には個別の判断が必要となることから、毎日が試行錯誤だと言います。「病害虫の被害や天候不順による生育への影響など、自然相手の農業は大変なことも多いですが、自由に労働条件を決められることや、苦労した分だけ結果として返ってくることに農業の魅力を感じています」と話す伊藤さん。環境の変化に対応して品質と収量を両立させ、美味しいレンコンを毎年安定して出荷することにこだわりながら、今後は規模拡大も視野に入れるなど、強い意欲を燃やします。

最後に消費者の皆さんに向けて「海部地域では一年を通してレンコンを出荷しています。冬のイメージが強いですが、ぜひ、春夏秋冬それぞれの季節料理にレンコンを使っていたら嬉しいです」とメッセージをいただきました。